

令和2年度事業計画書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人がんサポートコミュニティー

1 事業実施の方針

- (1) がん患者にとって最適な治療を受けることは最大の関心事ではあるが、同時に治療の苦しみや再発の不安、死の恐怖に向き合うには家族や友人の支え以外にも、同じ病と向き合う仲間たちとの交流を通じて希望を得て、回復の可能性を高めていくことも意義深い。日本は世界トップレベルの医療システムを構築しており、とくに国民皆保険制度とフリーアクセスは世界に例を見ないシステムである。また今日の情報社会において患者は様々な情報に基づき自らが望む医療を望む医療機関で受けることができる。しかし、心理社会的サポートについては今日の情報社会といえども情報に乏しく、またアクセスするまでのハードルが未だ高い。患者が心理社会的サポートを望めばそうしたサポートにアクセスできるようにすべく医療機関と情報交換を図りながら有機的な連携を目指し、時代の要請に応え得る心理社会的支援活動事業の充実を図る。
- (2) 心のケアはがん患者だけではなく、家族にも同じく必要である。家族は患者をケアする役割に没頭して、自分自身の心のケアを怠りがちである。また患者の精神的な支えになるために自分の辛い気持ちを心の奥底にしまい込んで、気丈に振る舞うことが多い。がんは患者本人だけではなく、家族にとっても大きな衝撃であり、心理面、社会面、その他日常生活に大きな影響を与える。そのことから家族は「第二の患者」とも言われている。がん患者の家族に対する心理社会的サポートの充実を図る事業に注力する。加えて家族をがんで亡くされた遺族のためのケアの充実を図る。
- (3) 1980年代、アメリカの乳がんがんで亡くなられた患者の家族が“このような悲劇が繰り返されないように”との願いを込めて始まったピンクリボン運動同様に、前立腺がんといった男性特有のがんに着目した心のケアはもちろんのこと、啓発活動も含めた新たな事業として試みる。
- (4) 近年、おひとりさまが増えている。若者の一人暮らしだけでなく配偶者と死別した高齢者や未婚の中老年男性の一人暮らしも急増している。結婚をして同居家族がいることを“標準”としてきた日本社会において単身世帯の急増は衝撃である。しかしこれは個人の生き方や家族のあり方が多様化していることの象徴でもある。一方これまで世帯内の助け合いが生活保障の大きな役割を果たしてきたので、単身世帯の抱えるリスクに対して社会としての対応を考えていく必要がある。米国本部Cancer Support Communityが地域コミュニティーに根ざした心理社会的支援活動事業の取り組みのなかで、“拡大家族”として位置づけてきたように、わが国におけるおひとりさま世帯のがん患者同士を支えあうしくみとして捉え、地域コミュニティーでの新たな役割として取り組む。
- (5) がんは以前のような「治らない病気」というイメージはなくなってきたが、「治りづらい病気」という感じは否めないというのが現状である。しかし、ここ20年余の医療の進歩で急速に治癒率が改善しているがんもある。一方で、がんが年齢の5乗に比例して増加することからも一つのがんを克服しても新たながんに備えなければならない時代になったともいえる。がんサバイバーに対して、新たながんに備えてがん検診を受けることを勧奨することを目的とした普及啓発活動を新たな事業として試みる。
- (6) がん患者支援アプリ「CAN.」の配信情報、有用情報のリンク先の充実を図る。がん患者や家族にアプリを活用いただけるよう、がん患者会や他のがん患者支援団体との緩やかな連携を模索する。
- (7) 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症まん延阻止のため、令和2年4月7日に緊急事態宣言が发出され、外出自粛が市民に求められたことを受けて、公式YouTubeチャンネルを開設し、自宅でリラクゼーションプログラムを取り入れられるように動画配信を試みる。
- (8) 新型コロナウイルス（COVID-19）の影響を受け、収入の減少等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっているがん患者や家族もいることから、がんひとり向き合わない社会の実現のために、がんになっても誰もが心理社会的支援を享受できるように、令和2年度よりがん患者や家族の年間登録料（5,000円/年）の無料化を実施する。

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	内 容		実 施 日 時	実 施 場 所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人 数	支出額 (千円)
心理社会的支援 活動事業	サポート事業	患者及び家族に対するサポートグループ運営	随時	事務所	9	患者及び家族 1,000人	14,828
	医療相談事業	患者及び家族に対し複数の医師による医療相談実施	随時	事務所	3	患者及び家族 30人	
技術的支援 活動事業	リラクゼーション事業	患者及び家族に対するヨーガの指導	随時	事務所	1	患者及び家族 140人	2,966
		患者及び家族に対するアロマセラピーの指導	随時	事務所	1	患者及び家族 30人	
		患者及び家族に対する自律訓練法の指導	随時	事務所	1	患者及び家族 30人	
		患者及び家族に対するコーラスの指導	随時	南大塚地域文化創造館	3	患者及び家族 500人	
普及啓発 活動事業	普及啓発事業	バイシエントアクティブフォーラムの開催	令和2年9月6日	よみうり 大手町ホール	15	患者及び家族、 市民 400人	8,897
		患者支援プログラムを学ぶセミナーの開催（大阪）	令和2年11月予定	TSURUYAホール	3	看護師、社会福祉士及び臨床心理士 40人	
		がんを学ぶセミナーの開催（東京）	令和2年7月4日	事務所	3	患者及び家族、 市民 30人	
		がんを学ぶセミナーの開催（大阪）	令和2年11月予定	TSURUYAホール	3	患者及び家族、 市民 40人	
		大阪マラソンEXPOにブース出展	令和2年11月27日 ～ 令和2年11月28日	インテックス大阪	12	患者及び家族、 市民 50,000人	
		説明会	随時	事務所	4	患者及び家族 60人	
		機関誌「がんサポ通信」の発行	年2回	事務所	10	患者及び家族、 市民 4,000人	
		スマートフォン対応アプリ「CAN.」	随時	事務所	3	患者及び家族、 市民 1,000人	

	普及啓発事業	YouTubeチャンネル	随時	事務所	3	患者及び家族、 市民 500人	
		活動報告会	令和2年6月予定	事務所	7	賛助会員 20人	
		関係図書頒布	随時	事務所	2	患者及び家族 250人	
	教育研修事業	看護師、社会福祉士 及び臨床心理士を対 象とした、患者の心 理社会的支援の実践 指導	令和2年11月1日 ～ 令和3年3月31日	事務所	9	看護師、社会福祉 士及び臨床心理士 10人	
調査研究及び 情報交換事業	情報交換事業	とわの会：前年度に ご家族を亡くされた 遺族のための交流会 を開催	令和2年10月17日	事務所	7	遺族 10人	2,966
		患者及び家族に対し 家族の絆を深めるこ とを目的としたイベ ントを開催	令和2年11月予定	未定	8	がん患者及び家族 500人	

(2) その他の事業

該当なし							